

〔新入社員の声〕

新入社員の声

東 間 千 芽（全農畜産サービス株式会社）

All about SWINE 54, 26

全農畜産サービス株式会社の東間千芽です。2018年4月から岩手県雫石町にある東日本原種豚場に勤務しております。

私は岩手大学大学院農学研究科（修士課程）を修了し、新卒採用で入社いたしました。大学では家畜繁殖学・生殖工学を専攻し、主にブタ体外受精胚を用いた研究を行っており、具体的には、ブタ胚と雌性生殖器（子宮・卵管）由来の細胞を同時に培養し、ブタ胚の初期発生に雌性生殖器細胞が与える影響について検討しておりました。研究を始めた当初は、ブタ胚の作出効率の向上や胚移植技術の進展の一助となればと考えておりましたが、正直なところ、満足できるような成果は出せませんでした。しかし、ブタの繁殖の面白さを学び、同じ研究室の友人に紹介されて弊社を知り、現在はブタの生体を相手に仕事ができるので、それほど悪い学生生活ではなかったと思っております。

次に仕事について紹介いたします。私はAI（人工授精）センター、検定豚舎で主に仕事をしております。AIセンターでは、デュロック種、ランドレース種および大ヨークシャー種の雄ブタのみを飼養し、顧客の注文に応じて各品種の精液を採取・希釈し、自動分注機でチューブに充填し

ます。製造した精液チューブは冷却後、梱包・出荷し、ご利用いただいている各農場に届けられます。希釈精液の精子数や活力は、繁殖成績や生産性に直接影響するため、精液製造において品質管理は特に重要だと考えております。そのため、精液の検査や希釈、自動分注機の操作は主に上司が行っておりますが、仕事に余裕がある時には上司の指導のもと製造業務に取り組み、精液の品質管理について学んでおります。

検定豚舎では育成段階における各個体の発育能力（日増体量、飼料効率など）を測定するための豚舎で、測定データを基に繁殖用個体の選抜を行っています。選抜された個体がAIセンターで精液採取に用いられるため、測定データのエラーは各農場の繁殖・生産効率に影響すると考えられます。そのため、日々のデータや豚舎内環境を適正に管理することで、適切な選抜ができるように気をつけています。

大学での研究も、農場での仕事も毎日・毎週が同じことの繰り返しであるからこそ、一つ一つの良し悪しの積み重ねが成果に表れるものだと考えております。ハイコープSPF豚ピラミッドにおける原種豚場の職員としての責任を自覚し、責務を果たしていきたいと思っております。